

# 分野連携企画報告書

## 行事（企画）名

第二回法工学・環境工学連携セミナー「環境技術における法工学～SDGsに向けて～」

行事URL <https://www.jsme.or.jp/event/22-59/>

1.開催日・会場 2022年7月7日（木） レクザムホール（香川県高松市）

### 3.企画内容

本セミナーは、法工学専門会議と環境工学部門からの基調講演を規範として、環境工学部門からの事例紹介（問題提起）に対して、法工学部門からそれに対するアンサーを行う対話形式とする。セミナーへの参加者は、学部生・大学院生はもとより実際に企業の中で環境対策や事故対策などの実務に取り組んでいるエンジニアを想定し、その方々が法工学の知識と手法に基づいて、この新しい視点を将来に役立てられるよう、公共性のある技術開発に向けた社会実装のためのヒントが得られることを目標とする。

### 4.連携の成果

分野連携企画として、環境工学部門が取り組み環境工学総合シンポジウムに組み込むことによって、幅広い世代、幅広い分野のメンバーにご参加頂き、廃棄物に関する総合的な議論が展開できたことは有意義であった。

特に、法工学からの視点の在り方について、掘り下げて特別講演を企画し、これからの研究者、技術者が考えるべき法制度との融合の重要性を浮き彫りにすることができた。また、コアテーマを社会的に大きな問題となっている廃棄物におけるリチウム電池による事故、爆発、火災をなくするための原因、対応策、法制度、将来像を様々な角度からの議論をすることができ、分野連携企画として継続することを申し合わせた。

### 2.企画部門

環境工学部門、法工学部門  
（幹事：環境工学部門第二技術委員会）

### 5.今後の課題（苦勞した点、課題点、他の企画へのアドバイス等）

環境工学部門と法工学専門会議との連携において、進めるべき取り組みとして、賛同をえるのだが、具体的なテーマ設定になると、立場上の制約から、絞り出すのに困難な点があった。特に今回は、廃棄物処理に関する実社会における問題点にスポットをあてて、議論する方向に進めたので、各社の触れられたくない法的責任を伴うテーマを掘り下げる難しさに直面した。最終、多くの地方自体が抱えるリチウムイオン電池に関する取扱いについての具体的な話題をピックアップすることができ、それをサポートする企業とその法制度の在り方を議論する法工学との意見の交換を繰り広げることができた。

セミナーは、事前に話題提供のレジメを提出して頂き、環境工学部門と法工学専門部門との事前会議を行い、議論が発散しないように核となる課題を絞り込み、方向性を持たせた講演運営を行い、活発な議論を展開することができた。特に、テーマ設定においては、少し先に実社会問題において問題を予測し、その技術の在り方、法制度の在り方の意見交換を進めることによって、新しいシーズの発見にも繋がると考える。